

秋冬にんじん産地の新たな担い手の育成

～千葉市東部・土気地区合同の新規栽培者研修会を開催～

1 活動のねらい

J A千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参部会及び土気地区出荷組合連合会人参部会では、近年、高齢化による部会員の減少や秋冬にんじんの作付面積の減少が見込まれる一方で、新規参入や親元就農により、新たに秋冬にんじん栽培に取り組む生産者が増えています。

そこで、栽培管理技術の向上と営農上の課題を明確化するための研修会を開催し、新たな担い手の経営安定を図るための普及活動を行いました。

2 課題の背景

千葉市東部地区の人参部会56戸、土気地区の人参部会18戸は、面積約50haの秋冬にんじん産地であり、国の野菜指定産地の一翼を担っています。(冬にんじん・千葉)

近年、高齢化による部会員の減少が進む中、新規参入や親元就農により平成29年以降に7名が部会加入し、若手の加入が進んでいます。しかし、新規部会員の多くは栽培の経験が浅いため、秋冬にんじんの収量や品質の向上が課題となっています。

そこで、産地の担い手の育成・定着に向けて、秋冬にんじんの栽培技術の向上を図るとともに、営農上の課題を明確にすることにより、経営改善の取組を進めました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 秋冬にんじん新規栽培者研修会の開催に向けた準備

秋冬にんじん新規栽培者の栽培技術力の向上と経営を安定させ地域へ定着させるため、千葉みらい農業協同組合(以下、農協)、千葉市農政センター(以下、農政センター)と連携し、秋冬にんじんの新規栽培者研修会の開催を企画しました。研修会の対象者は、栽培を開始して5年前後を目安とし、千葉市東部地区、土気地区で対象となる生産者の洗い出しを農協と、農政センターの協力を得て行いました。また、対象となる生産者を個別巡回し、研修会への参加を促しました。その結果、千葉市東部地区、土気地区合わせて12名の生産者が参加しました。



写真1 秋冬にんじん栽培の講義

(2) 研修会の開催

研修会では栽培管理技術に関する講義と営農上の課題を明確にするためのグループ討議を行いました。講義は農協の職員が担当し、主に土づくりやかん水の重要性、病害虫防除について説明をしました。グループ討議では3班に分かれ、現在の経営の課題と課題解決に向けた取組について、それぞれ解決策を検討しました。その後、班ごとに話し合った内容を発表し、全体で共有しました。



写真2 グループ討議内容を共有する研修参加者

研修参加者のうち新規参入者と親元就農者の違いで捉えている課題は異なりました。新規参入者は農地や労働力、機械設備が不足している場合が多く、営農条件に対して問題意識が高い傾向にありました。一方、親元就農者は農地や労働力、機械設備が揃っているため、にんじんの栽培技術や病害虫防除について問題意識が高い傾向があり、各自の経営上の課題が明確になりました。

研修参加者からは「講義で学んだ内容を実践していきたい」、「同年代との仲間作りの良いきっかけになった」といった感想を聞くことができました。

4 今後の課題

千葉市東部地区、土気地区の秋冬にんじんの産地面積を維持するには、新規栽培者の栽培技術の向上と露地野菜の経営を安定させ、地域への定着をすすめていくことが重要です。そのために、個別巡回指導により各自の栽培技術を向上させるため、今後も参加者のニーズに合わせた研修会を開催し、相互の技術研さんと地域内の仲間づくりを支援していきます。

5 担当者 千葉・習志野グループ ◎井上 絵里加、木村 明花音、
今井 亜希子

6 協力機関 千葉市農政センター、JA千葉みらい